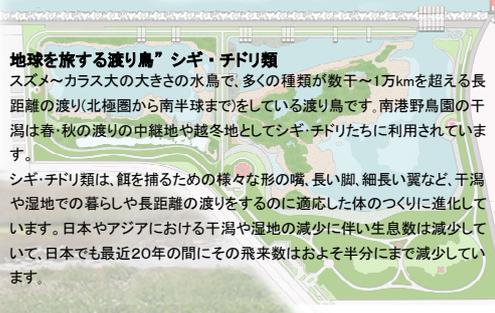


# 南港野鳥園は水鳥たちのレストラン

ようこそ南港野鳥園の干潟へ！

野鳥園の干潟にはシギ・チドリ仲間をはじめ、たくさん水鳥たちが訪れます。野鳥園の干潟で水鳥たちが一体何を食べているのか、干潟レストランのメニューを紹介しましょう。

東アジア・オーストラリア地域  
フライウェイ(渡りの経路)



## 地球を旅する渡り鳥 シギ・チドリ類

スズメ〜カラス大の大きさの水鳥で、多くの種類が数千〜1万kmを超える長距離の渡り(北極圏から南半球まで)をしている渡り鳥です。南港野鳥園の干潟は春・秋の渡りの中継地や越冬地としてシギ・チドリたちに利用されています。シギ・チドリ類は、餌を捕るための様々な形の嘴、長い脚、細長い翼など、干潟や湿地での暮らしや長距離の渡りをするのに適した体のつくりに進化しています。日本やアジアにおける干潟や湿地の減少に伴い生息数は減少しています。日本で最も最近20年の間にその飛来数はおよそ半分にまで減少しています。



渡りのシギ・チドリ類、全部わかるかな? 様々な形の嘴でいったい何を食べているのだろうか?

### カニ類

干潟の石の下やカキの殻の隙間にはイソガニの仲間がたくさん隠れています。ダイシャクシギやホウロクシギ、チュウシヤクシギは下に曲った長い嘴をカニの巣穴に器用に差し込んで捕らえます。外来種のチチュウカイミドリガニも中〜大型のシギ類やサギ類、カモ類などが捕食しています。

### エビ類

干潟の滞筋や海藻の間にはスズエビ類や、干潟に巣穴を掘って暮らすテッポウエビなどは、サギ類やアオアシシギなど中〜大型のシギ類が捕食しています。



## シギ・チドリたちが嘴でつばんでいる干潟の表面には何がいの?

**干潟表層部に巣穴を作るヨコエビ類**  
南港野鳥園によく飛来する小型のシギ・チドリたちが干潟の表面で盛んに何かを食べています。いったい何を餌としているのでしょうか。2005〜2006年に行った調査では、干潟の表層部に大きさ3mm程のトンガリドロクダムシやニホンドロソコエビなどが1㎡あたり4〜12万匹も生息していました。

**海藻や漂着物などの隙間や下に潜むヨコエビ**  
干潟の表面にはアオサなどの海藻が繁殖・堆積し、その隙間に大きさ1cm程のモズミヨコエビやボショットゲオヨコエビなどが、また、干潟の高い場所に打ち上がった海藻や転石の下にはヒメハマトビムシやフサゲモクスなどのヨコエビが隠れていて、小〜中型のシギ・チドリ類が海藻の隙間をつついたりして捕食しています。

### バイオフィーム

干潟の泥の表面に棲む微生物類(底生珪藻類)やバクテリアと、その粘液などによって形成された薄い粘膜を「バイオフィーム」と言います。最近の研究で、小型のシギ類がブラシ状になった舌先を使って干潟表面のバイオフィームをなめとって食べていることが明らかになりました。研究者によれば、南港野鳥園に飛来するトウネンもバイオフィームをかなり食べているそうです。



## 【大阪湾の干潟マップ】



## 大阪湾の干潟

海岸の護岸や埋立地の造成が進んだ現在の大阪湾には、自然の干潟は男里川河口や成ヶ島などにわずかに残されているだけです。近年造成された小さな人工干潟が各地にあります。

人工干潟は流入する河川がないなど、干潟の構造や環境条件が自然の干潟とは異なっているため機能は自然干潟にはおよびませんが、湾内の各地にそれぞれ違った環境の干潟があることによって大阪湾全体で多様な生物相が育まれています。

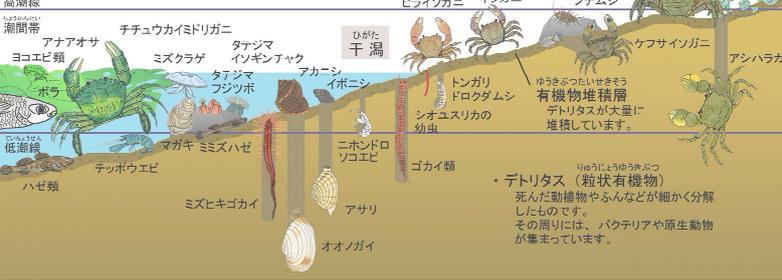
南港野鳥園はとくに自然の少ない大阪湾奥部において多様な生き物が生息できる重要な干潟となっています。

## 南港野鳥園の干潟の生き物

南港野鳥園の干潟ではこれまでに200種類以上の海岸生物が確認されています。その多くはベントス(底生生物)で、干潟、ヨシ原、転石地などそれぞれに棲み分けて暮らしています。

### ベントスって?

水中で暮らす生物は大きく3つに分けることができます。  
●プランクトン(浮遊生物): 水中を漂い暮らす生物 ケンミジンコ、クラゲなど  
●ネクトン(遊泳生物): 水中を自分の力で泳ぎ回って暮らす生物 魚、イカ、クジラなど  
●ベントス(底生生物): 水底で暮らす生物 カニ、貝、ゴカイなど  
干潟では砂や泥に巣穴を掘ったり、岩に付着するなどして暮らすベントスがよく観察されます。



### ゴカイ類

干潟の砂や泥の中には、コケゴカイやヤマトカワゴカイ、ミズヒキゴカイなどのゴカイが巣穴を掘って豊富に生息しています。メダイチドリやオオトリハシシギはゴカイが大好物で干潟から引っ張り出して食べているのが観察されます。大きなアオサギがゴカイ類を捕えているのを見ることがあります。



### 貝類

アサリやホトトギスガイなどの二枚貝はオバシギやコバシギが、タマキビガイなど石の表面にいる小さな巻貝はキョウジョシギなどが食べています。カモの仲間やクツラヘラサギが貝類を捕食している姿を見ることがあります。

### 魚類

干潟の水際の石の下にはチチブ(ハゼの仲間)がたくさん隠れていて、サギ類やカイツブリが捕食しています。春先に見られるカレイ類の稚魚もサギ類やシギ・チドリ類の餌になります。ミサゴが大きなボラなどの魚を捕まえて、園内の杭に止まって食べている姿もよく見られます。

### 昆虫類

塩分の少し混ざった湿地や海岸の水際に棲む、小さなユスリカやミギワバエの仲間などの昆虫もシギ・チドリ類の重要な餌となっています。

## 絶滅危惧種

南港野鳥園の干潟ではナギサノシタタリやオオノガイなど絶滅のおそれのあるベントスが40種類ほど確認されています。水鳥だけではなく干潟のベントスにとっても貴重な生息地です。



### ナギサノシタタリ

海辺の埋もれた石の下に棲む原始的なカタツムリの仲間。大きさは3mm程で、大阪湾では数ヶ所で見つからない珍しい巻貝です。



### オオノガイ

干潟に深く潜っている大きさ10cm程になる二枚貝。干潟の攪乱に弱く全国的に減少。南港野鳥園の干潟は貴重な生息地になっています。



### ハクセンシオマネキ

干潟を代表するカニで、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)に指定されています。ハクセンは「白い扇」の意味で、夏になるとオスは白い大きなハサミを振ってメスに求愛します。大阪湾奥部では野鳥園の干潟が最大の生息地となっています。



### アカテガニ

野鳥園の干潟を取り囲む森の中にたくさん棲んでいます。海と陸とを行き来するカニで、赤いハサミが特徴。夏の大潮の夜にメスは波打ち際まで降りてきて、お腹に抱えたたくさんの卵から子ども(幼生)を海に放ちます。垂直護岸化の進んだ大阪湾で、海から森までのゆるやかな移行帯(エコトーン)が残されている南港野鳥園は大変貴重な生息地です。

## 干潟がもつ機能

- 干潟には水質や環境を改善したり、多くの生き物を守り育てる大切な役割があります。
- ・水質浄化(天然の下水処理場)
- ・津波や洪水を軽減させる(スポンジのような役割)
- ・海のゆりかご(魚類の子どもを守り育てる場所)
- ・地球温暖化の軽減(塩性植物や藻類などが光合成しCO2を吸収する)
- ・地球を旅する渡り鳥たちの生息地(国際空港・レストラン)
- ・レクリエーションや環境学習の場(バードウォッチングや自然観察など)

## 水質の浄化について、牡蠣で実験してみました。



にごった海水を水槽に入れました。後ろに置いた絵は良く見えません。水槽に元気な牡蠣を入れてこのまましばらく置いておくと、だんだん海水が澄んできて後ろの絵が見え始めます。牡蠣が海水をろ過してきれいにしたのがわかります。



## 湿地の維持管理

南港野鳥園の干潟は人工的に作られた干潟なので、水鳥たちの餌となる生物が豊富に生息し、安心して餌が採れる干潟の環境を維持していくためには、きめ細かな環境監視と生物調査に基づく干潟の管理が欠かせません。水鳥たちが干潟で何を食べて、どこをどのように利用しているのか、鳥たちの視点に立つて南港野鳥園の湿地環境を今後も保全していくことが大切です。